

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

Vol. **69**

2016 WINTER



特集

第八管区海上保安本部

浜田海上保安部

若手からベテランまで
一丸となつて海を守る

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **69**
2016 WINTER

PHOTO GRAVURE

- 1 西之島の噴火後、海保として初上陸 西之島及び周辺海域の調査を実施
- 1 海上保安庁の国際業務 フィリピン大統領の視察対応等
- 2 宮古島海上保安部への昇格 種子島海上保安署の新設
- 2 海上保安庁音楽隊 第23回定期演奏会を実施
- 3 巡視船「かとり」36年の任務に幕
- 3 船舶気象通報の廃止 67年の歴史に終止符

[特集]

第八管区海上保安本部

- 4 浜田海上保安部

若手からベテランまで 一丸となって海を守る

TOPICS

- 10 **浜田 エトセトラ** ~特集では伝えきれなかった浜田をここで~
- 12 **NEWSFLASH** ニュースフラッシュ

裏表紙

INFORMATION

第17回未来に残そう青い海・
海上保安庁図画コンクール
受賞作品が決定!!

西之島の噴火後、海保として初上陸 西之島及び周辺海域の調査を実施



10月22日から11月8日までの間、小笠原諸島にある西之島及びその周辺海域について、測量船「昭洋」と航空機MA725による調査を行いました。

島に上陸して測量の基準となる標識を設置し、その位置や高さの測定をするとともに、測量船による海底地形の調査、航空機による島及び周

辺海域の地形調査などを実施しました。

この調査の状況は、同乗したマスメディア等に取り上げられました。

本調査成果により海図を作製することで新たな領海等の範囲が画定し、領海は約70平方キロメートル、EEZは約50平方キロメートル程度広がる見込みです。



北太平洋海上保安フォーラム



アジア海上保安機関長官級会合



フィリピン大統領訓練等視察

10月11日から13日にインドネシアで開催されたアジア海上保安機関長官級会合、10月17日から21日にカナダで開催された北太平洋海上保安フォーラムに海上保安庁幹部が参加しました。広大な海上においては各国との連携・協力が不可欠であるところ、両会合をとおして、それぞれアジア地域、北太平洋地域の各国海上保安

機関と連携強化を図りました。

また、10月27日、フィリピンのドゥテルテ大統領が、横浜海上防災基地における海上保安庁の訓練等を視察しました。大統領は、海上保安業務への関心も高く、ゴムボートによる追跡・捕捉訓練、回転翼機による吊り上げ救助を熱心にご覧になりました。

海上保安庁の国際業務 フィリピン大統領の視察対応等

宮古島海上保安部への昇格 種子島海上保安署の新設



宮古島海上保安部

10月1日、尖閣諸島周辺海域等における取崩拠点としての機能の強化を図るとともに、警備救難業務オペレーションの高度化や業務支援基盤体制の強化を図るため、宮古島保安署を宮古島保安部に昇格させました。

宮古島海上保安部の発足により、先島諸島周辺海域における地元から求められる様々な業務



種子島海上保安署

ニーズに対しても、よりきめ細かく対応することが可能となります。

また、同日には、南西諸島周辺海域等における外国漁船等の監視体制や、海難事案、離島における自然災害等への迅速な対応体制の強化を図るため、鹿児島県西之表市（種子島）に種子島海上保安署を新設しました。

種子島海上保安署には、巡視船「たかちほ」を配属させ、南西諸島周辺海域等における海上保安業務への適切な対応が可能な体制を確保しています。

海上保安庁音楽隊 第23回定期演奏会を実施



10月20日、海上保安庁音楽隊第23回定期演奏会を東京芸術劇場・コンサートホール（東京都豊島区）において開催し、一般応募の当選者や来賓など、約1,500人の方々にご来場いただきました。

演奏会は、第Ⅰ部オープニングの行進曲「錨を上げて」で幕を開け、「ロシア領主たちの入場」や「オリエント急行」など、人気の楽曲を演奏しました。

第Ⅱ部は、葉加瀬太郎作曲の「情熱大陸」で始まり、来場者全員のかけ声で始まる「ザ・ドリフターズ・メドレー」、人気映画のテーマ曲のメドレーなど、皆様に馴染みの深い曲をお届け



しました。

曲の合間には、パネルなどを用いて海上保安庁の業務紹介や、緊急通報番号「118」を始め、海での事故防止のために大切なことの説明など、海上保安庁への理解を深めていただきました。



巡視船「かとり」36年の任務に幕



平成28年10月21日、銚子海上保安部所属の巡視船「かとり」は、36年の長きにわたる任務を終えました。

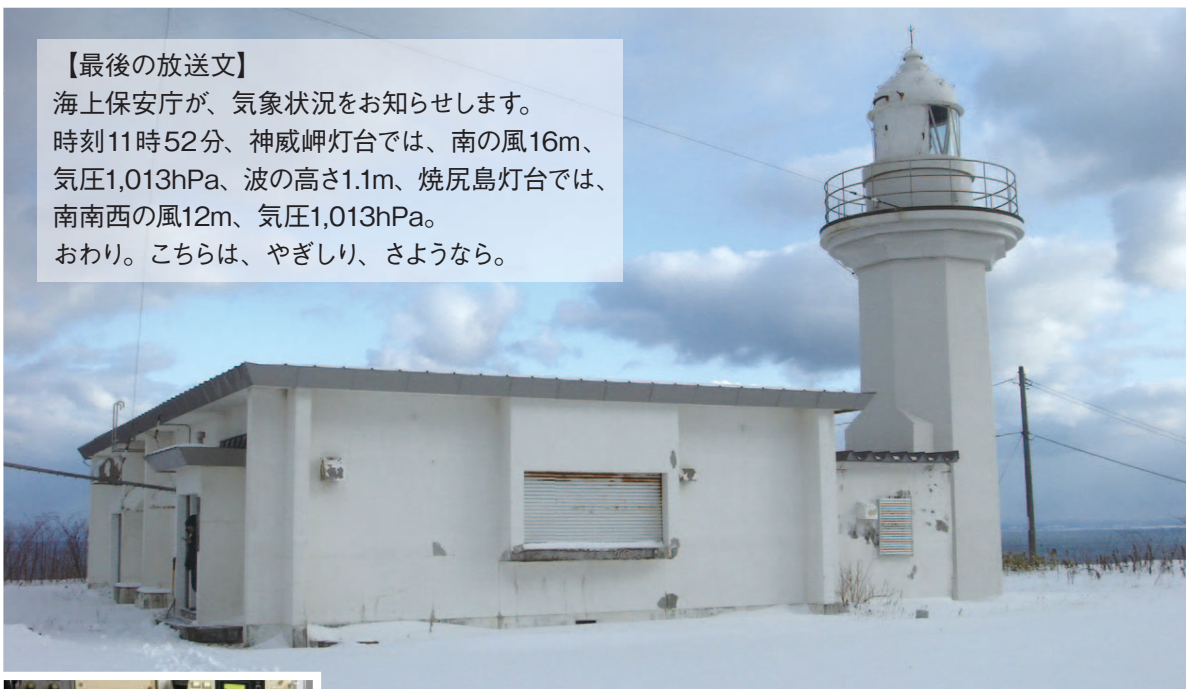
「かとり」は、昭和50年代、新海洋秩序に対応するため建造され、長年海上保安庁の主力船として活躍した通称「しれとこ型」と呼ばれる1,000トン型巡視船28隻の最後の現役船でした。

昭和55年10月21日、銚子海上保安部に配置となり、一度も配属が変わることなく36

年間銚子海上保安部の所属として業務に当たり続けたことから、地元住民の多くの方々に親しまれていましたが、10月15日、最後の勇姿を一般公開した後、10月21日、奇しくも就役日と同じ日に、惜しまれつつ退役しました。

【最後の放送文】

海上保安庁が、気象状況をお知らせします。
時刻11時52分、神威岬灯台では、南の風16m、
気圧1,013hPa、波の高さ1.1m、焼尻島灯台では、
南南西の風12m、気圧1,013hPa。
おわり。こちらは、やぎしり、さようなら。



平成28年9月30日正午、焼尻島灯台（北海道）からの放送を最後に、全国29箇所で行っていた無線による船舶気象通報が終了しました。

船舶気象通報は、灯台等で観測した風向、風速、波高などの気象情報を1時間毎に放送していたもので、昭和24年に襟裳岬灯台ほか4箇所、モールス信号による放送を開始し、その後、昭和29年からは音声による放送を行ってきました。

今般、インターネットの普及など通報手段の多様化による利用者の減少等を踏まえ、開始以来67年間の歴史に終止符が打たれたものです。



67年の歴史に終止符 船舶気象通報の廃止

若手からベテランまで 一丸となつて海を守る

対岸に朝鮮半島やロシアを臨む島根県西部

浜田海上保安部は関係機関と緊密な連携を取りながら犯罪を防ぎ

人々の暮らしと海の安全を守っている

取材・文／中島敦（オンサイト）



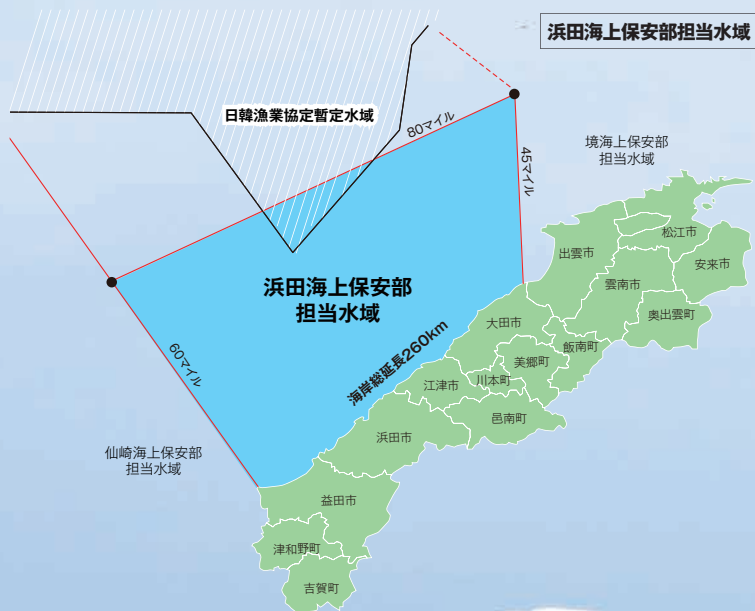
島根県西部を管轄する浜田海上保安部。東は第八管区境海上保安部、西は第七管区仙崎海上保安部との境界に挟まれ、海岸線総延長はおよそ260キロメートルに及ぶ。担当水域は朝鮮半島やロシアと地理的に近く、密輸や密航への警戒が求められる、また好漁場に恵まれていることから、密漁への注意も欠かすことができない地域だ。

浜田海上保安部には『いわみ』、『あさま』の2隻の巡視船と、巡視艇『やなかぜ』が配備されており、管理課、警備救難課、交通課と合わせて総員86人で島根県西部の海を守っている。

「地勢的にこの辺りは密漁・密航が懸念される所ですが、幸い最近は大きな事故や事件というものは発生していません。密漁についても、一時は大規模に行われていたこともありますが、現在はかなり減ってきている状況です」と説明するのは浜田海上保安部を率いる南條新一郎部長だ。「ただし、平成11年には覚醒剤密輸や密入国の検挙もありました。日本海側は隣国も近く、人口が少なく人の目が行き届きにくいので、警戒を緩めることはできません。また近年は特にテロへの警戒も強めています」

他機関との連携強化で築く 防犯体制

犯罪を未然に防ぐためには、地域や他機関との連携や情報収集と体制作りを欠かすことができない。浜田海上保安部は「島根県治安災害連絡協議会」、「島根県



10月21日に鳥取県中部を震源とする地震が発生。浜田海上保安部は即座に全船出港し、沿岸部の被害確認を行った。このときまきに出港せんとする『いわみ』と『あさま』。



浜田海上保安部長に就任して2年。「私がいる2年間、幸い大きな事案は発生していません」と語る南條新一郎部長。「上が余計な口出しをしなければ職員も自発的に動く。それが全体のボトムアップに繋がります」

銃器対策推進本部」、「浜田港水際対策連絡協議会」、「浜田港・三隅港危機管理コアメンバー」に参画して関係機関と連携すると同時に、国際取締官を中心とする警備ラインの職員が主担当となって情報収集にあたっている。

また、近年では管内に入港する船舶に対して、警察、税関との合同の立入検査を強化したこともあり、銃器、薬物等の密輸入事犯は発生していない。

密漁については、新日韓漁業協定に基づく暫定水域が浜田沖にも設定されているが、一部の韓国漁船が同海域をいわゆる「隠れ蓑」として、夜間あるいは地元漁船の出漁が少ない荒天時に日本の排他的経済水域や領海内に侵入するケースがあるため、境港漁業調整事務所(水産庁)や美保航空基地と連携を密にして情報収集と事案発生時の対応に備えている。平成16年、平成18年には韓国刺網漁船を検



いざというとき 頼りになる基本は 訓練の積み重ねから生まれる

- ①～③ 「いわみ」での警備救難艇揚降・操船訓練。ベテラン職員の指導の下、若手職員がいさぎと訓練に励んでいる。
- ④ 「いわみ」航海科職員の中で現場赴任2年未満の3人。
- ⑤～⑥ 「いわみ」船内での制圧術訓練の様子。
- ⑦ 実践さながらの不審者対応訓練

挙、平成19年に境海上保安部が集中取締まりを実施した際には、執拗に逃走を図る韓国漁船を『あさま』が他の巡視船と共に追跡、検挙している。

浜田海上保安部に所属する3隻の巡視



熊本地震では、第十管区に派遣され、熊本港で被災者支援にあたった「いわみ」。水や食料だけでなく、入浴トイレを提供して被災した人々の生活に寄り添った。左は支援物資を陸揚する「いわみ」乗組員。右は支援のお礼として手紙を頂いた「いわみ」乗組員。

船艇は、それぞれ特徴があり、まず『いわみ』は1000トン型巡視船。平成25年に配属された比較的新しい船であり、第八管区海上保安本部が担当する水域全域をカバーできる。4月には熊本地震の震災派遣、5月には、伊勢志摩サミット海上警備のための派遣など、全国各地で活躍している。

『あさま』は、不審船への警戒と対応が求められる高速特殊警備船となっている。『やなかぜ』は20メートル型巡視艇であり、主に浜田港内や沿岸部での哨戒にあたる。異なる3隻がそれぞれの特徴を生かしながら、隙のない警戒体制を整えているのだ。

事案の少ない地域とはいえ、非常時の即応体制に怠りはない。10月21日に発生した鳥取中部地震はマグニチュード6.6、最大震度6弱という規模の大きいものだったが、この時、地震発生後ただちに『いわみ』と『あさま』が沿岸部の被害調査に出港している。幸い、沿岸部に被害や異常はなかったが、初動の早さから日頃からの即応体制の徹底が表れていた。

職員自ら考え、動く組織作り

熊本地震の際、『いわみ』が熊本に派遣された。4月14日の地震発生を受け、哨戒中だった『いわみ』はそのまま第十管区海上保安本部に派遣され、26日まで支援活動に従事した。ちなみに4月16日から5月13日までの間に第十管区が実施した支援は、給水(約190トン)、入

浴(延べ利用者約6300人)、食料(約2.3万食)に及んだ。

『いわみ』の職員は他の船の職員と連携し調整を取りながら、支援を受けるため、訪れる人々の受付から誘導、駐車場の案内整理、そして乗船下船をサポートする日々を過ごした。

この被災地での派遣経験は、若手職員にとっても日頃とは異なる体験となった。着任直後に被災地に向かった若手職員のひとりには、「水は被災地の人にとって貴重なものですから、自分たちもできるだけ節水を心がけました。また、被災者支援の経験が少ない先輩も、我々後輩のことを色々と感じづかってくれたので大変心強く感じました」と語っている。

日々の生活に困っている人達に水を提供し、トイレや入浴を提供する。リラックスしたひとときを過ごした後の人々の笑顔は、「人の役に立ちたい」という思いを抱いて海上保安官への道を歩み始めた若手職員にとって大きな励みとなった。

大量採用時代の最中、中堅となる30代職員が不足し、経験は少ないながらも多数の20代職員が現場で活躍している。若手職員の底上げは海上保安庁全体の課題でもある。若手職員の教育、そして組織の運営にあたり南條部長は「基本だけは徹底させます」と強調する。「自分ばかりうるさく言う人間ではありません。と言っただけは任せませんが、業務をしっかりこなして事故を起こさないために、基本は必要です。基本は誰でもやろうと思えばできることですが、それを誰にも

負けないぐらい一生懸命にやりなさい」と。基本がしっかりと身につけていなければ未来に怪我を防ぐことに繋がるし、今後の成長にも結びつく。初めてのことにも応用が利く。凡事徹底——このひとつしか言っていない」と語った。

また浜田保安部長に就任した際、職員に対して「私は決して怒りません」と宣言。何でも相談しやすい雰囲気を作ることで、意見を吸い上げ最終的な判断は自ら示すという方針を示した。

部長の方針を脇から固めているのがベテランの職員たちだ。船内での休憩時、若手が集まって談笑しているところにフ



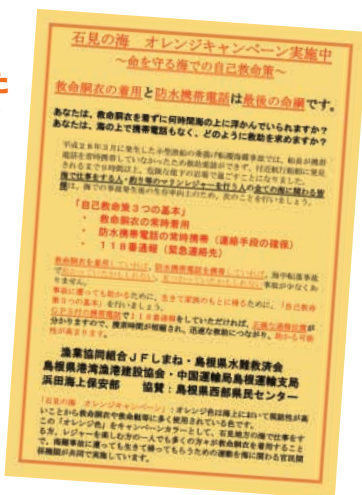
『いわみ』では毎朝、甲板上で海上保安体操を実施して職員の健康維持に努めている。静かな浜田の港に号令が響く。



『いわみ』、『あさま』を前に、『やなかぜ』のクルーも集まっての記念撮影。

職員の発案で始まった オレンジキャンペーン

海上で事故にあったとき、生死を分けるのが「救命胴衣」と「携帯電話」だ。浜田海上保安部では今年、「石見の海 オレンジキャンペーン」を展開し、救命胴衣の着用と防水携帯電話等の連絡手段の確保を促している。実際に発生した海難事故を受けて、職員の発案でスタートしたもので、オレンジ色は海上での視認性が高く、救命胴衣や救命艇に多く使用されている。



「このオレンジキャンペーンは、漁業協同組合や日本水難救済会にも賛同・協賛

無事救助されている。」「二度と事故を起こさせないためにもぜひ実施したい！」という強い思いからスタートした。この事故の時、携帯電話を持たなかった船長は、救助要請できずに危険な岩場で不安な一夜を明かし、翌日無事救助されている。

「やってみせ、言ってみせ、人は動かじ」山本五十六の言葉に習い、自らが過度に口出しすることはせずに、ひとりひとりが自発的に考え動きやすい環境作りを進める南條部長の下、浜田海上保安部は「やってみせ、言ってみせ、人は動かじ」山本五十六の言葉に習い、自らが過度に口出しすることはせずに、ひとりひとりが自発的に考え動きやすい環境作りを進める南條部長の下、浜田海上保安部は



ひとたび出港すれば3~4週間洋上生活となることもある『いわみ』では食事も大事な楽しみのひとつ。この日のメニューはトンカツ、ミートスパゲティ、そしてポテトサラダ。

浜田の海を守る海上保安官

MESSAGE from HAMADA

当たり前のことを当たり前にする

警備救難課 警備係 **古田 猛流** (25歳)

19歳の時に初任で浜田に来て「いわみ」に乗りました。前の古い型の「いわみ」です。現場に出てすぐに東日本大震災に派遣されました。居住性が悪くストレスの溜まる中で、2週間どこにも寄らずに沖合で流された船の曳航を繰り返しました。2年半前に突然の異動で船から陸上、警備救難課に移りました。当時は陸上勤務というベテランの人ばかりというイメージだったので、3年しか経験のない自分に何ができるのかとても不安でしたし、実際、最初の2カ月は何をすればいいのかも、何が分からないのかも分からない状態でした。なんとか自分でできる仕事を見つけようと始めたのが書類の整理でしたが、そのおかげで今は「あれ、どこにある？」と訊かれてもすぐに答えることができます。単純なことでも、まずは自分からやってみることが大切だと思いました。



仕事に専念することで震災の不安を忘れられた

巡視船いわみ 通信士補 **湊田 ゆう子** (21歳)

海上交通センターの管制官になりたいと思って通信科に入りましたが、配属されたのは「いわみ」でした。今も陸上勤務希望ですが、船での勤務経験を将来、海上交通センターでの仕事に生かしたいと考えています。



船での仕事は長いときは3~4週間になることもあります。船酔いもあるほうなので厳しいことでもあります。乗組員の方と楽しく会話しながらうまく生活しています。船の食事もおいしいですし(笑) メニューが被ることもなく、すぐく食べてくれていると思います。

熊本は自分の出身地でもあり、実家も地震で散々だったようです。派遣に行ったとき、皆さんに入浴や水を提供でき、直接熊本の人と話することができました。余震も続いている中で実家のことも不安でしたが、働いている間はそういう不安を忘れて一生懸命になることができました。

今は自分でできる仕事が増えることが嬉しい

巡視船いわみ 機関士補 **松原 佑次** (21歳)

この9月に配属されたばかりで、まだ機関については詳しくない部分が多いので、もし異常があっても今の私ではとても対応できません。早く自分ひとりで対応できるようにならなければならないと思っています。



ようやく出港作業などは慣れて一通りできるようになりましたが、やはり自分で理解してできるようになるのは嬉しいですね。任されたことができればやりがいにもなります。そのためにも機関について勉強し、仕組みを理解していかなければと思っています。

保安学校では「船は厳しい」と言われていたのですが、分からないことは、先輩方がていねいに教えてくれます。学生時代に抱いていたイメージと異なり、いざ船に乗ってみたら皆さんとてもフレンドリーに接してくれるのですぐに馴染むことができました。

皿が空っぽになるのが幸せです

巡視船いわみ 主計士補 **中野 健太郎** (23歳)

幼い頃、迷子になっておまわりさんに助けられたことがあり、その影響もあってか人を助ける仕事に就きたいと思い、海上保安官の道を選びました。



主計科は船内でお金を扱ったり、何より日々の食事で皆さんを支える大切な仕事です。長い航海ですから、似たようなメニューが続かないよう、バランスに気を使っています。肉には必ずサラダを添えたり、必ず青物野菜を2品以上は使ったり。味付けも、好みは人それぞれなので濃すぎず薄すぎず、10人いれば7人は納得できる味にしているつもりです。また、人によってアレルギーもあるので、間違っってそういう食材が入ることがないように注意しています。作った料理に「美味しいよ」と言われるとやはり嬉しいです。言ってくれない人も、残さずに食べてくれていれば十分です。皿が空っぽになっているのが幸せです(笑)

学校で習う基礎はきっと役立つ

巡視船いわみ 航海士補 **坂本 昂大** (23歳)

海上保安学校を出て、今年浜田に着任しました。最初は何をしたらいいかも分からず困りましたが、「この人について行きたい」と思った人がちょうど自分の教育係になってくれて、いろいろとアドバイスをいただいたり教えていただいたりしながら仕事を覚えました。少なくとも半年前と比べたら、少しは先を考えて動くようになりました。



学校で習うことは基礎の基礎。座学で「なぜこんなことを習うんだろう？」って思っていたことが、いざ現場に出ると「ああ、ここで使うんだな」って理解できたこともありました。知識は絶対に無駄にはなりません。将来は救難の道を目指していますが、体力だけでなく、知識もしっかりと身につけていきたいと思っています。



浜田 エトセトラ

特集では伝えきれなかった浜田をここで



●石見神楽



「石見地方に伝わる民族芸能、石見神楽。毎年秋祭りの時期になるとあちこちの神社で神楽が演じられ、それを楽しみに地元の人々が集まります。大太鼓、小太鼓、手拍子、笛を用いる囃子のリズムは、“どんちっち”と呼ばれ親しまれており、浜田の人々の“心のリズム”となっています。また、この石見神楽で使われる言葉は荘重・正雅もので、里神楽では稀と言われています。

浜田駅前には神楽の舞台を模した時計台があり、日中、1時間毎に舞台がせり上がって、流れるお囃子に合わせてカラクリ人形が神楽を演じる姿を楽しむことができます。



●浜田城跡



島根県の指定文化財。元和5年（1619）に伊勢国・松坂から浜田に国替となった古田大膳大夫重治（ふるただいぜんだゆうしげはる）が築城した浜田城は、本丸の高さ約14メートル。二ノ丸には櫓台、塩硝蔵、本丸常番所、時打番所、三ノ丸には諸役所、土蔵、表屋敷、南屋敷などがあったと伝えられています。

●石見畳ヶ浦



砂 岩や礫岩などの岩盤が波によって削られた海食崖。一定間隔に亀裂が走り、まるで畳を敷き詰めたと見えることから、別名「千畳敷」とも呼ばれています。広さは東京ドームよりも少し大きい約4万9000平方メートルほど。また、ところどころに波の浸食によってできた丸い石の塊（ノジュール）も見ることができます。

●三隈太平桜



浜 田市西部、三隈町の『三隈太平桜』は、彼岸桜と山桜の性格を併せ持った、大変貴重な品種とされ、日本に1本しかない非常に珍しい桜と言われています。推定樹齢は660年。満開の時期にはまるで雪の小山を思わせる見事な枝ぶり、訪れる人を魅了しています。

●都川の棚田・室谷の棚田



島 根県には『日本の棚田百選』のうち、7つの棚田がありますが、そのうちの2か所が浜田市の都川の棚田と室谷の棚田です。都川の棚田は、3メートルから4メートルを超えるもの高い石垣がきれいに保存されており、一方の室谷の棚田は日本海を望む眺望に恵まれた棚田で、室谷棚田祭りも開催されています。

●ノドグロ・あか天



浜 田市の魚、ノドグロ。島根県ではアカムツを、喉が黒いことからこう呼んでいます。脂のつった身は淡い紅色。地元では煮魚が一般的ですが、塩焼きや刺身、寿司、干物でも親しまれています。また、特定の時期に水揚げされた鮮度の良いサイズが80g以上のものを『どんちっちノドグロ』と呼び、他に『どんちっちアジ』、『どんちっちカレイ』もあります。一方の赤てんはまさに浜田のソウルフード。白身魚のすり身をフライにしたものですが、サクサクとした歯触りと唐辛子のピリッとした刺激、何よりもその赤い見た目が特徴です。



●浜っ子春まつり

1950年から伝わる浜田市の伝統的な春祭り、毎年4月29日に開催されます。名物は大名行列で、馬に乗って城主や奉行に扮したり、あるいは上臈や女中、奴に扮して市内を練り歩きます。もちろん、伝統芸能である石見神楽の鬼たちも行列に参加する、浜田市の春を彩るお祭りです。



第一管区

ライフジャケット・ライフゼムを装着し、ハーフマラソン参加

網走

10月9日



第六管区

宇和島海上保安部初の女性海上保安官着任!!

宇和島

9月27日



第二管区

ママチャリで漁協を訪問! 各地で漁船海難防止を呼びかけ

二本部

11月8~9日



第七管区

対馬最北の町「豊崎神社大祭」奉納相撲で海上保安官奮闘

比田勝

9月10~11日



第三管区

特殊救難業務研修修了。新たなトッキュー隊誕生!

三本部

11月2日



第九管区

中学生職場体験。潜水士指導のもと、搬送訓練

伏木

10月24~28日



第四管区

伊勢志摩サミット会場の英虞湾を安全で美しい海へ

鳥羽

9月25日



第十管区

熊本地震復興祈願、2016みなと八代フェスティバル

八代

11月6日



第十一管区

「世界津波の日」平良港で
防災・危機管理現地総合訓練を実施

11月5日



学校

高倉神社大祭に学生達が参加

海士保安女子校

10月16日



大学校

海上保安政策課程第1期生学位記授与式

9月14日



本庁

海上保安大学校



「2016海保フェア in 立川」を開催！
1,152名来場

海士安試験研究センター

10月15日

十一管区で実施
沖縄県の灯台
10選

148周年灯台記念日

日本初の洋式灯台「観音崎灯台」の起工日に因み、11月1日を灯台記念日と定めています。

今年で148周年を迎え、この機会に灯台に関心を向けてもらうため、各地において、灯台の一般公開や管内の灯台人気投票を行う等、様々なイベントを実施しました。



一本部 小樽駅でパネル展



大分 姫島灯台(一般公開)



1位 残波岬灯台



2位 琉球平瀬灯標



3位 ルカン礁灯台



奄美 笠利崎灯台(一般公開)



銚子 犬吠崎灯台(一般公開)



田辺 潮岬灯台(壁画「スイミー」披露式)

第17回未来に残そう青い海・ 海上保安庁図画コンクール 受賞作品が決定！！

海上保安庁は、公益財団法人 海上保安協会との共催で、海洋環境保全思想普及活動の一環として「未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」を行っています。今年で17回目を迎えた本コンクールでは、全国の小中学生から33,298点の作品応募があり、国土交通大臣等による審査の結果、下記のとおり受賞作品が決定しました。



小学生低学年の部
鈴木 真生さん
広島県福山市立
樹徳小学校 3年生



中学生の部
岡本 愛海さん
宮城県塩竈市立玉川中学校 2年生



小学生低学年の部
大村 悠貴さん
福岡県大牟田市立みなと小学校 2年生



小学生高学年の部
影山 一心さん
徳島県美波町立
日和佐小学校 5年生



中学生の部
齋藤 南々子さん
神奈川県横浜市立
港南中学校 3年生



小学生低学年の部
森 綾香さん
愛知県刈谷市立
東刈谷小学校 3年生



小学生高学年の部
伊東 英晃さん
広島県広島市立千田小学校 6年生

